第９３号
２０１８年９月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３-１９-３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma-ccu.jp/
Eメール:post@gunma-ccu.jp

6月１９日(火)

群馬県連女性協議会第２５回定期総会が開催されました

会員生協から代議員･オブザーバーとして組合員、役職員など７９名が参加しました。

主催者代表として群馬県生協連の中村隆夫会長理事と県連女性協の松本勉枝会長が挨拶を行いました。続いて来賓として群馬県生活文化スポーツ部消費生活課次長福田一也様、群馬県ぐんま男女共同参画センター所長戸塚洋子様、ＪＡぐんま女性組織協議会会長土屋玲子様より激励や連帯のご挨拶をいただきました。議事に入り藤原副会長が第１号議案「２０１７年度活動報告および活動費報告承認の件」を提案し、次に第２号議案「２０１８年度活動方針および活動費計画決定の件」第３号議案「役員選任の件」を松本勉枝会長より一括提案しました。質疑応答の後、多数の賛成で全議案が承認されました。

第２部のアトラクションでは鍼灸師・歌手の澤田馨さんの力強い歌声とハンデを乗り越えて夢を追いかける前向きな姿に感動しました。「とっても元気と勇気をいただいた」「涙と笑いの楽しい時間だった」「若さとパワーをもらった」等々たくさんの感想が寄せられました。

女性協運営委員　甫仮文子（群中医療生協）

女性協総会に、初めて参加させていただきました。ご来賓皆様からの挨拶では渋川市を震源とする地震、大阪北部で発生した地震へのお見舞いと共に防災・減災に向けた取り組みについて触れられ、改めて生協ならではの協同と連帯の精神を強く持つ必要性について感じました。

総会では、男性代議員の参加が少なく寂しさを感じましたが、女性協の歴史やこの間の取組みの説明と多世代の代議員の方からの積極的な発言もあり、幅広い連帯や活動を展開していることに理解を深められました。

アトラクションの澤田さんの歌「息子へのラブレター」が私にはストライク！。同じような家庭構成と吸引された尖がり頭の息子まで同じで、しみじみと素敵な時間を過ごせました。

事業管掌　常勤理事　事業・商品本部　木嶋三博さん（パルシステム群馬）

６月１９日群馬県生協連女性協議会の第２５回定期総会に初めて参加しました。２０１７年度の活動報告では、各種学習会、会員生協の活動交流、県行政とのつながり等々、交流し学びの中で会が前進している様子を知りました。２０１８年度も多くの活動が予定されており、多くの生協の会員と男女共同参画を目指し運動を広げていることを知り、私も出来るだけ参加してもっともっと女性協の活動を学びたいと思いました。

アトラクションでは、歌手、澤田馨さんのすばらしい歌声に日頃の疲れも取れ、うっとりと聞き入りました。澤田さんは、難病に侵され両目の視力を失いながらも、鍼灸師として治療院を開業、ライブ活動も行っているそうです。手を引かれステージへ出てきたのを除けば、全く障がいをもっているとは思えない若々しく綺麗な方で、素晴らしい歌でした。私も思わず、若い頃にかえり「亜麻色の髪の乙女」を一緒に歌いました。本当に元気をもらいました。ありがとうございました。

塚本まさ枝さん（群中医療生協）

県連女性協議会が会員生協活動交流会を開催　5月２３日(水)

８会員生協･県連から４５名が参加し、学習と交流を深めました

基調講演は、群馬県立女子大学で初の女性学長になられた小林良江先生に、「地域における女性リーダーの役割」と題してお話いただき、多くのデータを駆使して大事な問題を提起されました。

日本のジェンダーギャップ指数は、世界 144 ヶ国中 114 位であるという報告から始まりました。ジェンダーギャップ指数とは、女性の社会進出における、男女格差を示すものです。

日本は女性格差で知られるアラブ首長国連邦よりも、下位となります。このことは政治や経済分野での女性の進出が低いことが原因です。

群馬県の状況は、県会議員の女性比率が全国 44 位(2 人しかいません)。自治会長と、市区町村審議会の女性参画率は、ともに全国最下位。組織におけるクリティカルマス(変化が出るために必要な率)は３割と言われています。

男性は仕事、女性は家庭という考え方は、日本社会に根強く残り、特に男性にその傾向が強いという意識調査の結果がありました。群馬県では、男性の方が優遇されていると思う人が全国平均より高く、特に「社会通念、しきたり、習慣」における女性の不平等感があるとのことです。女性は地域での縛りを強く感じていて、それは若い女性が地元に残らない理由の一つであり、女性の都会への流出を止めるためには、男女平等の実現が必要とのことです。

女性が管理職(リーダー)を目指さない理由として、理想は高く、自己評価は低いことがに原因がある様です。また女性は失敗を恐れる傾向があるが、仕事における失敗の経験は有益で、小林学長自身、知事から「思いっきりやれ。失敗しても何とかなるから」と背中を押され学長となる決心をしたそうです。

女性もリーダーとなると、男も女も生きやすい社会になる。女性リーダーという言葉がいずれなくなるように、リーダーに男も女もない社会を目指しましょうと締めくくられました。

女性協運営委員　木村香織（生活クラブ生協）

基調講演者の群馬県立女子大の小林学長は、お人柄も素敵な女性で歯切れもよく、わかりやすくお話をしてくださいました。

２０１７年の日本の状況は世界１４４か国中総合１１４位という低い水準にあり、その中でも群馬県は各分野における女性の占める割合の順位が低い現状を聞くたびに群馬の状況を含め、ため息がでます。日本は決して先進国とは言えません。

国政選挙などで男女の候補者数を「できる限り均等」にするよう政党に努力義務を課す「政治分野における男女共同参画推進法」が成立しました。

小林学長さんは、女性はコミュニケーション力があり、３Ｋ（細やかさ・公正さ・決断力）もよい。「管理・命令型」リーダーシップでなく、サーバント（支援型）リーダーとして、一緒に仕事をしている人の能力を引き出しそれによってリーダーを目指しましょうということばには、元気が出ます。

男女問わず人間として、挨拶をして心を開いて相手の話を傾聴、会話、自分のことも理解しあうこと、人間として当たり前のことができることが大切とあらためて思いました。

今回の講演会の感想、体験談、各所属に戻りどのように活かすかとのグループワークがありましたが、「ジェンダー」ということばとともに、意義を共有することが大切だと感じました。

丸山　一世さん（生活クラブ生協）

女性協運営委員学習会開催

8月8日(水)

県生協連女性協議会初代会長の根岸尚代氏を講師に設立当初の活動や思いを語っていただきました。学習会は毎年第２回運営委員会の冒頭に行われているもので、今年度は設立２５周年であることから、１９９４年の発足より１０年間会長を務められ、現在は、はるな生協の常任理事として活躍されている根岸尚代氏にお話を伺いました。コープぐんま理事から、女性協会長、生協連理事と常に女性参画のパイオニアであり、当時は女性の役職への登用が珍しかったことから、新聞各社のインタビューを受け、県の審議会や中国への視察交流旅行なども経験したことを語っていただきました。

「男女共同参画を広め、運営委員にはますますがんばってもらいたい」とエールをいただき学習会を終了しました。

副会長　藤原京子（利根保健生協）

はるな生協のとりくみ

「病児病後児保育室のびのび」

多くの働く親の思いで、安心して仕事ができるように 2005 年「のびのび」を作りました。

急な発熱、インフルエンザなどで登園、登校が制限されるなど、子育て中には病気に関連して予測できないことが起こります。そんな時に病児から病後児のお子さんをお預かりするのが「のびのび」です。

ゆったりと過ごせるように環境を整え、感染症の病気にも対応できるように隔離室もあります。医師、看護師、保育士が連携をとり合い保育しています。「病気の時くらい本当は見ていてあげたい」という気持ちをしっかりと受け止め、お父さんお母さんが少しでもストレスなく働けるように、子育て中の就労を応援しています。

お子さんと一緒に、また子育て中のお友だちと一緒に、いつでも施設見学にきてください。

夏の健康管理

この時期の子ども達は、残暑厳しい暑さの影響を受けやすく、日光の照り返しが強く当たったり、熱が体内にこもったり、冷房による室内外の温度差が体調不良のきっかけにもなります。夏バテに始まり、感染症や熱中症、皮膚炎などにかかりやすくなるため、健康管理に気を配る必要があります。

日頃からの手洗い・うがいに加え、十分な睡眠とバランスの良い食事をしっかり摂り、楽しい夏にしてください。

☆幼児期の食事について☆

2歳児～5歳児の幼児期は最も身体発達が著しく、2歳から5歳の間で体重約2倍、身長約1.5倍に伸びて、食生活の基礎ができる時期です。「子どもの成長は6歳までの食事で決まる」とも言われています。この時期は活動も成長も著しいのでエネルギー源となるご飯と身体の土台となるたんぱく質（肉や野菜）が不足しないように注意が必要です。

また、「おやつ＝お菓子」と思っている方も多いかと思いますが、おやつは3回の食事で補いきれない栄養素を補う為のもので、おにぎりやふかし芋、野菜や果物それらをミキサーにかけたスムージーなども良いでしょう。不足しやすいカルシウムや鉄分をとるには、小魚やチーズなども立派なおやつとなります。ぜひ、とり入れてみてください。